

文になるフィオーレ喜連川人vol.44 河本啓子

子どもたちの吊るし雛飾りで、喜連川をもっとすてきに
text by 大河原千晶

「喜連川公方ひなまつり」は昨年開催されている喜連川のイベント。仕掛けているのは「喜連川公方ひなの会」。その発起人でもある河本啓子さんは和い話の広場で年3回開催する「子ども楽集会」の主催者でもある。メイン会場の笹屋別邸を彩るかわいらしい吊るし雛はその楽集会に参加した子どもたちによる作品だ。「元々は空晩舎の事業として小中学生を対象に『こども楽集会』は開催されてきました。行事に合わせたモノ作り体験で、ひな祭りの吊るし雛作りや敬老の日には和菓子屋さん協力の下、練り切り作りなどもやりました。ところが空晩舎が無くなったので、楽集会に関わっていたわたしも不完全燃焼だったのでも、個人的にやることにしました」

空晩舎とは、TV番組『開運！なんでも鑑定団』の鑑定士で古民具収集家の故・安岡路洋先生の民具骨董展示館で、2009年まで氏家



3丁目
河本啓子
KEIKO KAWAMOTO

駅eプラザ吉番館内に開館していた。河本さんはその事務員として採用されたが、事務とは名ばかりで展示の企画から準備、来館者への接客などの仕事が多かった。

「先生にはとにかくお客さんの目になってどうすれば喜んでもらえるか考えなさいと言われました。道具の演出にもものすごくこだわって。それまでは骨董品Ⅱ古くて汚いイメージでした。でもある時カゴの企画展で飾るカゴを先生が丁寧に洗って、型を新聞できちんと作

って持ってきてくださった。道具に愛情をもって接する先生の姿を見て『ああ、昔のものってすばらしいな』と良さがわかったんです」

それまで全く興味のなかった文化・芸術の分野に興味を持つようになったことも「子ども楽集会」に繋がった。流行や良いものに触れる内自然とそれがわかるようになってほしくて、体験にはその年の流行なども積極的に取り入れている。東京へ出向き情報収集し自身でも必ず実際に作ってみる。

「楽集会では一日で作品を完成させるようにしています。一回2時間と、子どもたちにとつては長いけど、頑張れば出来る上がる。その達成感を味わってほしいから私自身も子どもたちを待てるんです。頑張った子どもたちの『出来てよかった！』の聲が聞きたくて。実はひなまつりを企画した個人的な動機は、この子どもたちの作った吊るし雛を多くの人に見てもらいたいから。子どもたちの作品は体育館とかに飾られたりするけど、そういう場所よりも笹屋のような空間に飾った方が何倍も良く見え



笹屋別邸
sasaya-bettei

営 休
10時半〜15時

VOL.46
KITSUREGAWA KUBOU
HINA-MATSURI
喜連川公方
ひなまつり
2.3sat - 3.4sun



喜連川商店街に位置するこちらの建物は、栃木で10番めに開設された元「郵便局」。年に2回しか解放されない2階部分に飾られた雛飾りは、およそ百年前に作られたひな人形。世にも珍しい赤ちゃんを抱いた立ちびなのお雛様（表紙写真）。弁財天や寿老人のような風貌の立ちびなもあり、見れば見るほど発見のある雛飾りは必見。

営 休
10時〜15時頃

フィオーレ内唯一のひなまつりと言えばコチラ。七段飾りの豪華なひな人形を堪能した後は、イタリア料理を堪能あれ。

営 休
11時〜22時



一緒にイベントを盛り上げてくれる仲間を募集しています！
お問い合わせ → 090-8857-0139 (喜連川公方ひなの会)